

地球の
「いきいき」の
ために

環境目標の達成状況

ISO14001に基いて環境目標を定め、全社で環境活動に取り組んでいます。

2010年度のISO14001環境活動結果

2010年度は8項目で目標を達成することができました。

● 2010年度 ISO14001環境目標の達成状況



…目標を達成できました



…目標を達成できませんでした

項目、具体的指標	目標⇒結果	取り組み・達成状況
生産部門CO ₂ 削減 焼酎換算商品1kℓあたりのCO ₂ 排出量(2007年度比)	5%削減⇒12%削減 	アルコールの蒸留や製品・生産設備の殺菌などに使う蒸気を作るため重油やガスを使用しています。また、容器への製品充填などの生産工程では電気も使用します。2010年度は、ボイラーの省エネ型への更新や廃熱回収設備の導入、熱のロスを防ぐ保温工事などの省エネ対策の効果によって、目標の5%を上回る12%の削減を達成しました。
生産部門用水削減 焼酎換算商品1kℓあたりの用水使用量(2007年度比)	±0%⇒4.5%削減 	お酒の原料として水を使用するほか、生産工程(装置や容器の洗浄およびアルコール蒸留や商品の冷却など)でも水を使います。生産工程での水の再利用や節水により、用水の削減に取り組んでいます。2010年度は、目標の±0%を上回る4.5%の削減を達成しました。
工場廃棄物排出量の削減 焼酎換算商品1kℓあたりの廃棄物排出量(2007年度比)	25%削減⇒25%削減 	排水汚泥やびん、缶などの空容器の削減を中心に工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。2009年に引き続き排水処理設備への負荷削減に努めた結果、排水汚泥の発生量が少なくなったため、目標を達成できました。
物流部門CO ₂ 削減 焼酎換算商品1kℓあたりのCO ₂ 排出量(2007年度比)	3.6%削減⇒1.5%削減 	コンテナ輸送の際のフェリーの利用などのモーダルシフト*や、消費地から近い工場での生産を推進し、工場からの商品物流に伴うCO ₂ 総排出量の削減を進めてきましたが、東日本大震災の影響で西日本の工場から東日本への出荷が増えたため、目標を達成できませんでした。
環境ボランティアの推進 社員の環境ボランティア参加の増加人数(2007年度比)	150名増加⇒34名減少 	自社で企画したボランティア活動や外部からのボランティア募集情報を社内へ発信しています。2010年度は自主企画活動の実施数や社内への情報発信数は増えましたが、天候不順によって中止となったボランティア活動分をカバーできず、目標を達成できませんでした。
グリーン購入の推進 森林認証された用紙への仕様変更および使用量(2007年度比)	仕様変更可能分についての使用率 100%⇒100% (使用量240%増加⇒201%増加) 	緑字企業報告書をはじめ、アニュアルレポートや商品のご案内などの印刷物に森林認証された用紙を使用することで、生物多様性に配慮した環境広報活動が可能となります。仕様変更可能なものに関しては100%森林認証された用紙を使用し、目標を達成できました。
環境配慮型商品の開発 環境配慮型の工夫や仕組みを持つ商品の開発品数	2品目以上⇒4品目 	環境に配慮した商品を開発、販売していくことで生産、物流段階や消費者の皆様の手に渡ってからの環境負荷も削減したいと考えています。2010年度は、ガラスの使用を減らすため、清酒に軽量化びんを採用。また、紙の使用を減らすため、外箱ダンボールの一部を繰り返し使えるプラスチック製ケースに変更するなど、紙箱の仕様を変更したことで目標を達成できました。
環境配慮型商品の販売促進 「はかり売り」実施店 新規開拓店舗数	10店舗以上⇒15店舗 	「はかり売り」の実施店舗数を増やすことで新たなPETボトル容器を使用せずに焼酎を販売でき、資源の節約のほかCO ₂ の削減にも貢献できます。2010年度は新たに15の販売店で焼酎の「はかり売り」を開始していただき、目標を達成できました。
営業車の低排出ガス車導入の推進 営業車の低排出ガス車導入率	65%以上⇒73% 	営業部門での環境負荷の低減を図るため、セールス活動に使用する自動車について、燃費のよい低排出ガス車の導入を推進しています。2010年度も引き続き、低排出ガス車やハイブリッド車への入れ替えを進め、目標を上回る低排出ガス車導入率を達成できました。
環境コミュニケーションの推進 環境啓発冊子 リサイクルロードの配布部数	4,000部以上⇒4,570部 	環境啓発冊子リサイクルロードを環境イベント(アースディ、エコプロダクツ展など)で宝酒造ブースを訪れた子どもたちに配布したほか、環境教育用にとご要望いただいた団体などへ送付しました。また、NPOなどの開催する環境イベントにも提供した結果、2010年度は目標を上回る部数の環境啓発冊子を配布することができました。

*モーダルシフト:トラックから環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと貨物輸送を転換することをいいます。

8: ISO14001活動結果詳細

9: 工場副産・廃棄物の用途

10: 工場別サイトレポート

ISO14001に基く全社での活動

3年ごとにグループ目標を見直し

TaKaRaグループ※では1999年からISO14001環境マネジメントシステムを導入し、商品の開発から原材料の調達、商品の生産、販売、物流に至るまでのすべての段階で環境目標を設定して環境負荷の削減に取り組んでいます。

グループで取り組む環境目標は、3年ごとに見直ししており、2008年から2010年の3年間は、深刻化する地球温暖化の問題に対応するため、CO₂排出量削減につながる目標を中心に取り組みました。

※ ISO14001:2004におけるTaKaRaグループは、宝ホールディングス、宝酒造、トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステムで構成されています。

3年間で22,156 t のCO₂排出量削減

CO₂排出量を削減するため、本社・支社・工場それぞれの部門で取り組みました。

商品開発段階では容器の軽量化など環境配慮型商品の開発を進めました。生産段階ではガスボイラーなどの省エネ設備の導入や日々の省エネ活動に努めました。物流段階においてはフェリーや鉄道輸送を増やすことによるモーダルシフトの推進やトラック配送の効率化を進めました。また販売段階では新たな容器を必要としない「はかり売り」の拡大やセールスカーのハイブリッド車導入、エコドライブなどに取り組みました。焼酎のはかり売りでは、3年間でPETボトル約166万本※を削減し、そのPETボトル製造時に発生するCO₂、409tの発生を回避することができました。以上の取り組みによって、3年間で合計22,156 t のCO₂を削減することができました。

2011年度からの活動においても、CO₂排出量削減をはじめとする地球環境への負荷削減の取り組みを継続するとともに、地球環境にとってプラスとなる取り組みにも注力していく予定です。

※ 2.7ℓのPETボトルで換算した場合。

グループ会社の取り組み / タカラ物流システム

輸送効率の高いトラックをメーカーと共同開発

酒類・食品・通販物流を担うグループ企業のタカラ物流システムは、効率輸送による環境負荷低減に注力しています。その一環として、15tトラックをメーカーと共同開発しました。

従来の大型トラックは最大積載量が13.5tで、輸送効率の向上を図るには積載量アップが必要でした。そこで、積載量を容積・重量ともに10%増とする15tトラックの開発に、いすゞ自動車株式会社と共同で取り組みました。ボディーを延長する一方、各部材の見直しとボディーの総アルミ化など思い切った軽量化を図った結果、従来の13.5 t車と比べパレット(荷台)積載数が10%増え、効率的な輸送を可能としました。

この新型車を2010年10月に導入し、2011年3月末

までの約半年間の実績では、1台あたり燃料約600ℓ、CO₂1,580kgの削減を果たしています。新型車は物流他社からも注目されており、タカラ物流システムとの共同開発車としていすゞ自動車から発売される予定です。



● 積載比較

